

# 高田地区

## ■基本的考え方

### 防潮堤 防潮堤・水門は12.5mで整備

○高田海岸の防潮堤（12.5m）、気仙川水門を整備する。

### 住宅 今回震災並みの津波による浸水可能性を考慮し、市街地嵩上げと高台移転による住宅再建

○防潮堤・水門整備後であっても、今回震災並みの津波による浸水可能性が残されていること、JR大船渡線（被災前）以南については、津波到達までの時間的猶予が少ないことから、以下の方針で移転先を選定する。

①JR大船渡線以南の地区は、北側丘陵部の開発により、高台移転地を確保。（復興計画図(案)の高①～高⑥を検討）

②市街地については、今回震災並みの津波の浸水を免れるよう土地区画整理事業等による嵩上げを検討。

○自力再建が難しい世帯向けに災害公営住宅の整備を要望。

### 道路 幹線道路については山側に付け替え市街地を再構築

○幹線道路については山側に付け替え、まちづくりとの連動による災害に強いまちの再構築を図る。

○市街地を通る新たな幹線道路については、沿道に商業ゾーンを形成し、メインストリートとしての魅力や賑わいを創出する。

○歩行者、自動車等による高台への円滑な避難を可能とするため、南北方向に複数の避難道路を整備する。

### 土地利用 防災性や安全性、景観等に配慮した土地利用

○新しい市街地は、土地区画整理事業等により嵩上げ等を行ったうえで、公共・公益施設ゾーン、商業ゾーン（道の駅、鉄道、バスターミナル等を中心）を整備するとともに、住宅街の形成や公営住宅の整備を促進し、コンパクトなまちの形成を図る。

○海岸地域の低地部や住宅等移転跡地の土地利用は、防災性や安全性、景観等に配慮し、産業地域、（仮称）スポーツ公園、緑地帯等に利用するとともに、公有地化を促進する。

○高田松原地域の背後地は国営等による防災メモリアル公園の設置を促進する。

○産業用地には、新しいエネルギー産業や既存の産業施設の立地を誘導するとともに、農地としての利用を促進する。

### 公共施設等 公共施設等は災害時における

#### 避難、機能の保全を考慮し配置

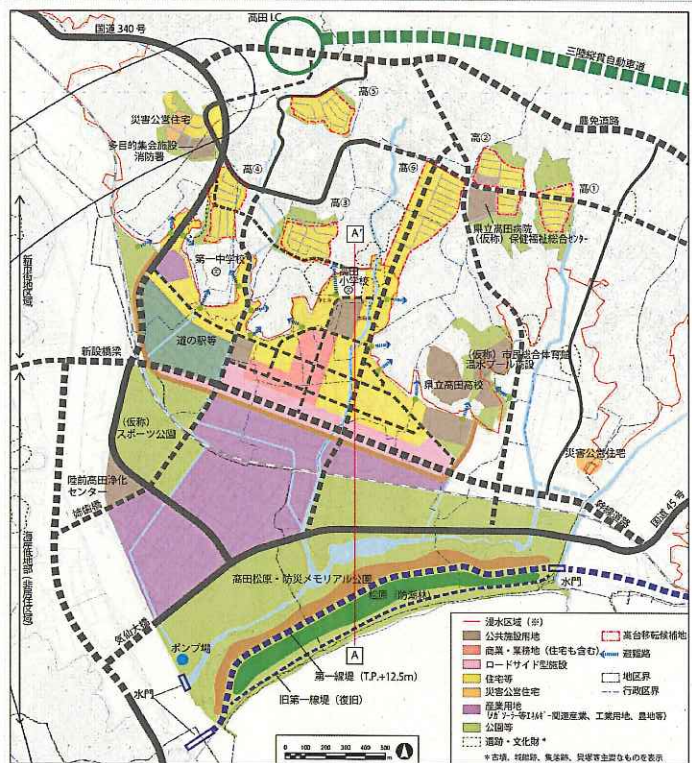
○学校、保育所、病院、（仮称）

市民文化会館、消防署、市役所等の公共施設は、災害時における避難、機能の保全を考慮し、高台への移転や低地市街地（嵩上げ）への配置を計画する。

○高田地区の祭を復興するため「動く七夕」ロードやまつり広場（道の駅など）の整備、市日の復活を図る。

高田地区復興計画図(案)

注：本図に示された計画は、いずれも地権者、施設管理者等との協議・合意形成等がなされたものではありません。



※本図に示した浸水区域は、現在作業中のものであり、実際と異なる場合があります。

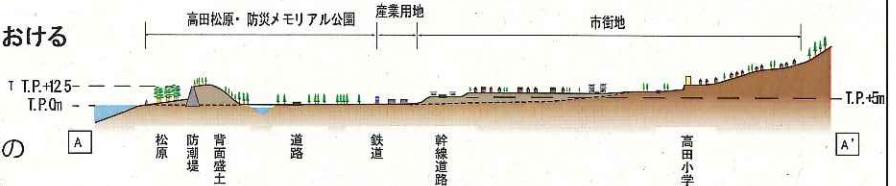


表 地区意向調査結果 ※7月19日市民意向現地調査結果

項目	主な内容
新市街地の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新市街地は、公共施設が中心となった構造とすることが重要。</li> <li>・公共施設、住宅地、公園、道路等を一体のものとして捉えた検討が必要。</li> </ul>
道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和野地区での横方向の道路整備が必要。</li> <li>・大町周辺の東西道路の直線化。</li> <li>・農免道路の拡幅、起伏の緩和。</li> <li>・緊急対応として交差点に信号機の設置が必要。</li> </ul>
避難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大町等から本丸公園への避難路整備（歩行者対応）</li> <li>・低地部市街地での第一次避難所整備（高齢者は高台への避難に時間を要するため避難ビル等が必要）</li> </ul>
防波堤、防潮堤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湾口防波堤を整備し、津波の威力を弱める対応が考えられないか。</li> </ul>

※平成23年11月10日現在のものです。